



ホーム > シンガポール > 化学 > 南洋理工大、染色体末端部の分子構造を解明

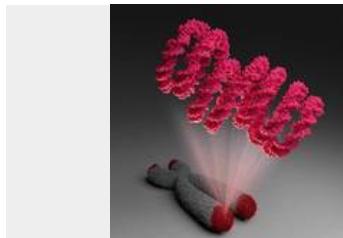
シンガポール

化学

[Facebookでシェア](#)[Twitter](#)[ブックマーク](#)

2022/10/03(月)

南洋理工大、染色体末端部の分子構造を解明



南洋理工大の研究チームが解明したテロメアの構造のイメージ図(同大提供)

シンガポールの南洋理工大学(NTU)は、人の老化やがん発症のメカニズムに深く関係する、染色体末端部の構造であるテロメア(末端小粒)と呼ばれる部分の分子構造を世界で初めて解明した。英科学誌ネイチャーで発表した。

テロメアとは、染色体を構成するデオキシリボ核酸(DNA)分子の末端部分。染色体の端を覆うことで損傷を防ぐ保護キャップのような役割を果たしている。

9月29日付の声明によると、南洋理工大の学者チームは、テロメアの構成要素がバネのように柱状に積み重なっていることを発見した。従来はジグザグ構造をしていると考えられていた。テロメアの構造上、従来考えられていたよりもDNAの一部が保護されないまま露出し、損傷を受けやすい状態に置かれていることも明らかにした。

研究チームは「今回の発見は、人が老化し、がんを発症する理由を解明するのに役立つ可能性がある」と説明。テロメアが機能不全に陥ることによって発生するさまざまな病気の治療法の開発にも貢献できると付け加えた。

関連国・地域: シンガポール

関連業種: 医療・医薬品／化学／社会・事件

関連記事

▶【シンガポール】科技庁、DNA塩基配列解読アプリ開発[医薬] (2014/05/30)

▶【マレーシア】キャドバリー製品不買運動、イスラム消費者協会[食品] (2014/05/29)

▶【シンガポール】豚DNAの混入菓子、国内流通なし[食品] (2014/05/29)

▶【マレーシア】菓子への豚成分混入で集団訴訟呼び掛け、NGO[食品] (2014/05/28)

▶【シンガポール】地場ペレダス、結核菌の検査キット開発[医薬] (2012/11/09)

[すべての文頭を閉じる ▲](#)

その他記事

シンガポール

社会

テイクオフ: 飲食店でスマートフォン…

(10/03)

飲食

無料トライアルはこちら

購読申し込みはこちら

不足の記事は有料サービスご契約者様限定記事です。契約すると続きを読むことができます。契約されている方は、画面右側にある[各種ログイン](#)からログインください。

▶ 広告掲載について

出版物

▶ NNAグローバル出張サポート資料 フィリピン2022

進出口系企業535社を国内エリア別、工業団地別にリストアップ。住所、電話番号、代表者など

契約すると続きを読むことができます。契約されている方は、画面右側にある[各種ログイン](#)からログインください。

ASEAN自動車市場2022～電動化への展望～

▶ 一覧へ